

# Alert 54号

反天皇制運動

[通巻 436号]  
2020年  
12月1日発行

第又期・反天皇制運動連絡会

今日の Alert ○明仁天皇制の代替わりを経て次の時代をどう捉えるか！――\*2

反天ジャーナル ○――捨てられし猫、映女、機関にすぎない天皇とは違うね\*3  
状況批評 ○政権の危機と運動の危機――小倉利丸\*4  
ネットワーク ○「その支出、ちょっとまつたあ！」  
――「京都・主基田拔穂の儀違憲訴訟」を提訴――高橋靖\*6

太田昌国のみたび夢は夜ひらく（126）

○コロナの時代に観る『スパイの妻』――太田昌国\*7

マスコミじかけの天皇制（53）（攘憲天皇制・象徴天皇教国家）批判 その18  
○象徴天皇の「代替わり」と「菊タブ」――天野恵一\*8

野次馬日誌\*9 集会の真相\*10 学習会報告\*11 反天日誌\*12 集会情報\*13

朝鮮学園、また朝鮮高級学校生徒・卒業生が全国5ヶ所で提訴した「高校無償化」裁判において、10月16日、30日、広島、福岡の高裁は不当判決を下した。すでに東京、大阪、愛知の裁判については最高裁で不当判決が確定している。地裁・高裁合わせて10の判決の中で朝鮮学園の主張を認めたのは大阪地裁ただ1つであった。大阪判決は施行規則の規定ハ（朝鮮学校等を指定する根拠）の削除について「法は教育の機会均等の確保の見地から……各種学校の範囲の確定を文科省令に委任したにもかかわらず、下村大臣は、……教育の機会均等とは無関係な……拉致問題の解決の妨げになり、……という外交的、政治的意見に基づき、朝鮮高級学校を支給法の対象から排除するため、……ハを削除したもので、委任の趣旨を逸脱するものとして違法、無効と解すべき……」と朝鮮学校排除の不当性を認め、朝鮮学園の勝訴を導いた。今回の広島・福岡控訴審判決他の朝鮮学校敗訴判決はハの削除について「この点については判断を要しない」（広島）・「判断する必要がない」（福岡）とする一方、「不指定」は大臣の裁量の範囲内で、逸脱・濫用はないとして、原告敗訴としている。

裁判官僚の行政権力に対する「忖度」であるわけだが、そこには天皇が三権を握っていた大日本帝国憲法下の裁判とのつながりを見なければならないだろう。主権在民の国であるならば、アメリカでさえ、下級裁判所が大統領決定を覆している。「すべて裁判官は、その良心に従ひ独立してその職権を行ひ、この憲法及び法律にのみ拘束される」（日本国憲法）であるにもかかわらず、現在日本の裁判所は大日本帝国憲法下の裁判所と同じく、他の権力を掣肘する意思を持たないのだろう。

（ぐずら）



●定期購読をお願いします（送料共年間4000円）

●郵便振替 00140-4-131988 落合ボックス

東京都千代田区神田淡路町1-21-7 静和ビル2A 淡路町事務所 気付 落合ボックス

TEL/FAX 03-3254-5460 URL <http://www.ten-no.net/mail:hanter@ten-no.net>

●以前の情報はこちら▶ <http://hanter-2.blogspot.jp/>

250円

明仁天皇制の代替わりを経て  
次の時代をどう捉えるか

一一月八日に秋篠文仁を「皇嗣」とするための、皇室典範にも旧皇室令にも規定のない「立皇嗣の礼」がなされた。これにより、二〇一六年七月に現「上皇」の明仁が生前退位の意思表明を行なったことにはじまる、天皇制の「代替わり」過程は一区切りしたことになる。私たちは、これに対しても反天皇制の実行委員会を組み立て、反対を表明する街頭行動を行なうことができた（詳細は別掲）。これまでにもたびたび述べてきたように、虚構の「男系・血縁主義に基づく天皇制の「皇位」継承の流れは、継承の該当者がしだいに死滅していくことにより制度的にも危殆に瀕しつつある。天皇に関する制定憲法上の制限を大きく逸脱してその権能を拡大した、明仁の危機意識によるふるまいと、皇室典範特例の制定により、今回の継承過程は済ませることができた。しかし、ほんらい明仁や他の皇族たちが望んでいた「皇位の安定的継承」につながる皇室典範の全面的な改定には、右派勢力の反対によって踏み出すことができなかつたようだ。なお残る各国の王政においても徐々にすすめられつつある、性別を問わない長子継承制度など王位継承ルールの改定は、安倍やその周辺の影響が残る面のあいだはなされないとと思われる。

「皇女制度の創設」という報道が、一一月二三日に一斉に流された。これは、女性「宮家」の創設により、形式的であれ女性皇族の「皇位継承」の可能性を残すものとはまったく異なつており、皇室典範第一章はもちろん、女

一一月八日に秋篠文仁を「皇嗣」とするための、皇室典範一二条も、皇族から離れたものが復帰できないという同一五条にも触れるものではない。元女性皇族が、「皇室の負担軽減」のため特別職の国家公務員になるというものであり、そのための「尊称」なのだという。これが天皇や皇族たちの意図する一族の安定とは異なり、かつ、皇族「もどき」の存在を増やすことで、皇室経済や警護など制度面を拡大することは想像に難くない。すでに結婚の意思を明らかにしている眞子ら秋篠の一人娘や、愛子、天皇の妹の黒田清子らが「皇女」として想定されているらしい。

天皇制やその維持につながる提案や行動には、いっさい与することをしたくないが、かといって、天皇制の存続が悠仁ひとりに託されたことで、より困難で危うくなることが明らかでも、このような新制度による弥縫策に加担するわけにいかない。法と制度の規範的な役割を考えれば、皇室典範の定める女性皇族の不平等と劣位は、この国家の人権制度全体にも影響を及ぼしているのであり、「皇女制度」にも反対するのが当然だ。

このかん、君主制の安泰を誇っていた国々でも、その権力に対する批判がさまざまに噴出している。公然と反対者を暗殺するサウジアラビアほどではないとしても、宗教的権威や軍とも一体化した権力を誇ってきたタイの王政に対し、ブーミポンの二〇一六年の死後、後継となつた現在のラーマ十世への批

性皇族がその婚姻後に皇族から離脱するという皇室典範一二条も、皇族から離れたものが復帰できないという同一五条にも触れるものではない。元女性皇族が、「皇室の負担軽減」のため特別職の国家公務員になるというものであり、そのための「尊称」なのだという。これが天皇や皇族たちの意図する一族の安定とは異なり、かつ、皇族「もどき」の存在を増やすことで、皇室経済や警護など制度面を拡大することは想像に難くない。すでに結婚の意思を明らかにしている眞子ら秋篠の一人娘や、愛子、天皇の妹の黒田清子らが「皇女」として想定されているらしい。

天皇制やその維持につながる提案や行動には、いっさい与することをしたくないが、かといって、天皇制の存続が悠仁ひとりに託されたことで、より困難で危うくなることが明らかでも、このような新制度による弥縫策に加担するわけにいかない。法と制度の規範的な役割を考えれば、皇室典範の定める女性皇族の不平等と劣位は、この国家の人権制度全体にも影響を及ぼしているのであり、「皇女制度」にも反対するのが当然だ。

いま、私たちは、一一月の「紀元節」や「天皇誕生日」に抗議する運動の準備をはじめると同時に、この五年近くにわたる第一〇期の反天皇制運動連絡会の活動の総括を開始している。二〇一六年の初夏に開始した今期のテーマは、しばしば病を伝えられた「明仁のマハ・アーデー」であった。それは、直後の退位意思の表明により想定とは異なる形で展開したが、一連の「代替わり」過程に向けて、十分ではないとしても持続的に意味ある闘いを提示することができたはずだ。とはいっても、そのスターから三〇年にも及ぶ明仁天皇制との対峙は、個々人の意志と身体にとどつては、誰にとつてもまったく楽なものではなかつた。どのように区切りをつけるか、友人たちとともに考えていきたい。

## 未来だつて案外イジワルなのだ

## 女性と黒人が米大統領選を決定

### 王様つて奴は!?

近未来SF映画の数々に影響を与えたとされる『ラ・ジュテ』(クリス・マルケル監督、一九六二年)を「コロナの夏」に再見。わずか二八分の、古典とも言える映画だからか、妙に生々しい。世界は第二次世界大戦で破壊され、生き残った人類は放射能汚染から地下に逃れているが、そこを支配するのは戦争の勝者たち。収容所に集められた捕虜たちは、危険なタイムトラベルの人体実験で次々と犠牲となっていく。主人公の男は過去へ、次いで未来へと送られるのだが……。

ここにある“未来”とは占領者たちのものだ。未來からの支援がもたらされると、男は抹殺される。人類を滅亡から救うと言いながら、結局は支配権力の存続のためじやんと言いたくなるのは、主人公への感情移入ではなく、コロナ禍に追い討ちをかける“いわゆる専門家”たちの妄言を思い出すからだ。政府の感染対策への批判や要求を濫そうとする姿は、忖度など通り越してほとんどマジドサイエンティストだ。

この間、戦前に遡った感染症対策への批判も読んだ。この国の軍隊はいったん滅びたはずだが、防衛部隊だけは生き延びていたというのか。主人公の男は平和な未来からの誘いも断つて、過去の記憶に戻つていくのだが、それが抵抗し、生き直すための大切な場所だからだらうか。

(捨てられし猫)

「一一〇〇年は女性の年」、一九二〇年合州国憲法修正一九条により、女性に参政権が認められてから百年。民主党副大統領候補に初の女性・黒人とアジア系のカマラ・ハリスさんが選ばれ、下院選に過去最多の女性が出席。

一一〇〇年米大統領選を決したのは、女性票だった。そして白人警官による黒人殺害に怒った「ブラック・ライブズ・マター（BLM）」運動。

一〇〇年一月一四日の米CNN放送によると、今回の大統領選は、この百年で最高の投票率六六・八%を記録。民主党のバイデン候補が七八一八万票、トランプ大統領七一七六万票。争点は世界最悪の感染者と死者を出しているコロナ・パンデミック。

「男性よりも高い投票率で、女性がバイデンを勝利に導いた」と分析するのは、ジャパン・タイムズ紙（一一月一六日）。同紙によれば、バイデン氏の成功は激戦州での白人大卒女性、黒人女性とラテン系女性の大多数を全米で獲得。

トランプ氏に対する女性たちの怒りは、二〇一七年一月二〇日大統領就任式翌日、ワシントンや全米各地での数十万人の女性たちの抗議行動・ウィメンズ・マーチで爆発した。

「歴史を変えた」選挙に黒人女性の九一%がバイデン・ハリスに投票。大統領は女に屈す!

(映女)

(機関にすぎない天皇とは違つね)

不敬罪による弾圧にもめげずに、王政改革を含む民主化を求めるタイの民衆によるデモが続いている。抗議デモはラユット首相の退陣を求めているが、首相支持派は、「国王の意思」を力に反転攻勢の構えといつ。

現在の国王は、一〇一六年に即位したワチラーロンコーン（ラーマー〇世）である。周知の如くこの国王は評判が悪い。体中の入れ墨や三度の離婚と四度の結婚はまだじ愛敬だが、即位後の一八年七月には、一九三〇年代以来、王室財産管理局で一元管理されてきた王室財産を、国家管理から国王による個人管理に変更した（財産は、約四・五兆円で王室財産世界一位。英国王室の八〇倍）。この金を手にして、さらに昨年、タイ王室では一〇〇年ぶりとなる側室までおいた。

国王自身によるこつした「逆向き?」の「王政改革」が進んでいく状況では、民主化を求める民衆が、「王政改革」の要求を掲げるのは当然だろ。

この王は、基本的にタイでなくドイツで生活しているが、今年の三月は、コロナを避けるためにハイエルンにあるアルプスを一望できるホテルを全室貸切り、側近数一〇〇人十愛人二〇人とともに隔離生活を送つていたそうだ。ここまでくると「王政改革」の問題ではないようだが……。

# 状況

## 批評

思想・状況・批評

# 政権の危機と運動の危機

小倉利丸（批評家）

発足間もない菅政権だが、戦後保守＝右翼政権の性格と近代日本＝資本主義が構造的にもつ本質的な問題が、既にいくつか露呈している。COVID-19対応では相変わらず経済ナショナリズムのために人々の生存を犠牲にする政策がとられており、感染爆発から命の選別へと向うことは必定だ。人的資源＝「労働力」として、費用対効果でいえば若年層の救命の方が資本にとつても政府にとつても利益になるから高齢者はそもそも医療サービスを受けられずに犠牲になつていくだろう。この冷酷なシステムの構造的な要請を政治がどのようにレトリックで誤魔化すか、これが菅政権に課されたある種の宿題だ。

菅政権発足直後にまずぶち上げたのが「デジタル庁」の設置だった。デジタル庁は、安倍がビッグデータ、AI、そして5Gネットワークを踏まえて凡庸な文明史観をもとにでつちあげたSociety5.0を継承したものといえる。デジタル庁の設置は、省庁横断とマイナンバーの普及がセットになつていて、次世代監視テクノロジーの政府組織への導入であつて、これが私たちの市民的自由に及ぼす影響は深刻だ。

デジタル庁問題が深刻なのは、民主主義の基本をなす立法と司法がほぼ完全に解体する、ということだ。法のかわりにコンピュータによるコードの支配が進み、法は形骸化する。なぜならコンピュータに法を遵守する意志はなく、コンピュータのプログラムの適法性は、技術的に難解で国会でも司法でも判断できず、私たち一般の人間も理解できないからだ。政府だけが、民間IT企業と組んで統治の意図をコンピュータのコードに組み込むことができる。AIとビッグデータによる将来予測に政策が依存するようになり、国会での討議や司法による裁判という時間がかかるプロセスもよくて現実の後追いがせいぜいのところとなる。機械は過去から社会の常識や規範を「学習」するために、差別、偏見やナショナリズムの偏りを学

び、反政府的な言動を社会的なリスク要因としてプログラムされれば、弾圧を正当化する道具にもなる。

デジタル庁は市民運動からの批判がいまだ低調なままだが、日本学術会議の任命拒否問題では市民運動もメディアも大学や学会もおしなべて菅へも任命拒否を批判するとともに、学術会議擁護の立場をとつてているようと思う。しかし現場の大学教員としての経験でいえば、学術会議は学問の自由を侵害するような行動をとつており容認できないのだ。学術会議は多くの提言などを出しており、任命問題の是非以前に、そもそも任命された学術会議のメンバーたちがやってきたことが、その活動内容に即して検証されねばならない。

私の経験とは以下のことで、学術会議は2008年の文科省から大学教育の分野別質保証の在り方について審議依頼を受け、大学教育のある種の学習指導要領作りを始める。教育内容に介入するようなことをやりはじめた。私の専門である経済学については、ここでも詳細は述べられないが、全く容認しがたい内容で、このガイドラインに則せば私は大学教育での居場所は全くなくなる。私の人生の多くを教育に費してきた者として絶対に譲れない一線だ。学術会議を擁護するなど私はできない。

それだけではない。出された提言のなかにはとうてい容認しがたいものがある。たとえば、小中高の学校教育への提言ではGIGAスクールの推進を前提としたIT教育の導入を積極的に推し進める提言を出し、生徒の成績などの個人データの収集を積極的に実施すべきだと主張している。また、新型コロナ対策としての医療データの活用のためにマイナンバーカードなどの行政システムを支えるデジタル環境の再整備を主張する提言を出したり、「行政記録情報の活用に向けて」の提言では、統計調査にマイナンバーを利用できるよう提言している。研究にビッグデータを活用するリスクはすでに指摘されている。二〇一六年の米大統領選挙でFacebookの膨大な個人情報を研究目的で提供し、これがトランプ陣営に利用された。研究目的を隠れ蓑にこうした深刻な問題が起きることがうるさいのだ。核問題についても原発容認の姿勢は崩れていない。今年九月「原子力総合シンポジウム2020」を「2050年の持続可能な社会の実現にむけたシン

リオと原子力学術の貢献」のテーマで開催するが、とうてい反原発運動が容認できるような内容ではない。今年春に学術会議は二〇五〇年をみすえたレポートを公表する。「未来からの問い——日本学術会議一〇〇年を構想する」と題された四〇〇ページのレポートのなかで、安倍政権が政策として推進してきた Society5.0 といふいかがわしい歴史認識をまるごと受け入れ、さらには「総務省が推進しているマイナンバー制度も、複数の組織に所属している個人情報を一元化してさまざまな申請をしやすくします。今後、情報管理を徹底する」とによって、情報の漏洩やなりすましの犯罪を防止できれば、もっと用途を拡大できるでしょう。」と礼賛している。今年の九月まで学術会議の議長は京大の人類学者で総長だった山極壽一だ。彼は日本の植民地主義と学術の責任に深く関わる京大の琉球人骨問題で一貫して消極姿勢をとりつづけてきた。その山際を学術会議は会員の互選で選んできたのだ。

学術会議を政府から独立させる議論もあるが、そうなれば学術会議は映倫のような自主規制団体になるだけであり、現状のままなら政権のアウトリーチとしての役割を担つだけだ。表現、思想信条の自由にとって必要なのは、自由に関わる制度を一つでもなくすことだ。私の二〇年の研究者、教育者の仕事のなかで必要と思ったことは一度もない。学術会議は学問研究にとって不要である。学術会議擁護の運動をしている市民運動などの皆さんには是非、学術会議は擁護すべき機関なのか、再度検証していただきたい。

市民運動をはじめとする社会運動は、私の目からみると、これまでにない危機的状況を迎えるようにみえる。COVID-19に関していえば、政権の対応、医療と経済について私たちがどのような判断を下すべきなのかについて、政府や支配的な制度とは別の観点からの提起をすることができているだろうか。マスクを拒否するマッショナリズムな極右の価値観とも自らと自己責任を強いる政府とも立場を異にする私たちの分析が非常に足りないとと思う。市民運動は政党の政策論議や国会政局から自由になり、資本主義経済の本質や身体と医への権利といった根本問題を問い合わせ、原則を貫くスタンスをとらなければならないのではないか。既存の教育制度や学者の権威を肯定しきてはいないか、とも思う。教育制度による差別と選別へ

の根底からの懷疑を運動の基盤に据えるべきなのではないのか。菅政権と産業界のデジタルへの流れに対しても、デジタルの日常生活を問う運動に至っていない。ネットもパソコンも理解を超える難解な機械であること自体が支配のツールになつてゐるわけだが、同時に、運動として使えるなり、Facebook であれ——NE であれ何でも使えばいいことじつは安易な利用主義が、ネットに伏在してゐる高度な治安弾圧を自ら呼び込んでゐることになつてゐると思つ。

さて、最後に天皇制について一言だけ述べておく。COVID-19 と各国の王室動向をみると、いずれも危機にありながら国民統合の積極的な役割を果せていない。天皇制を現代的な問題として重視する意義が見出しが対応しきれていないことにによると思う。この意味でいえば政権や支配層にとってもある種の天皇制の限界に直面しているともいえる。他方で、SNS は多様な極右の言説が流布する場にもなつておらず、どこの国でも移民・難民への差別と排外主義、様々な伝統主義的な価値観への回帰と宗教的な信条が目立つてゐる。日本の場合も、多様な日本的なものや日本文化から憎悪のヘイトスピーチまでが星雲状の言説空間を構成しながら、これらが帰結としてナショナリズムと「天皇」と呼びつるような象徴的な空間が、従来とは異なる性格をもつて構築されるように思う。マスメディア時代とは根本的に違い、大衆自身がマスメディアやフェイクニュースの言説を受容しつつ、彼ら自身が更に発信主体となつて支配的な価値観や心情を支える、といったメカニズムのなかでイデオロギー装置が構築される。この意味で、現実の空間での天皇ではなく、バーチャルな空間において、天皇といふ言葉すら明示されないような言論のなかに密かにもぐりこむようにして——とりわけリベラルな知識人やある種の左翼もどきの知識人の言説をも包摂しつつ——天皇制イデオロギーが表出するようになるのでは、と感じる。この意味で天皇制を支える構造そのものの変容にも注目しつつ天皇制批判のバージョンアップを図ることが必要になつてゐると思つ。

## 「その支出、ちょっとまつたあ！」——「京都・主基田抜穂の儀違憲訴訟」

高橋 靖（京都・主基田抜穂の儀違憲訴訟団事務局）

幸か不幸か、今回の天皇代替わり儀式での「主基田」に京都が選ばれ、われわれはそれに対してもアクションを起こすことになりました。

昨年の七月、「天皇の代替わりに伴う違憲行為を監視する有志の会」を結成し、京都府知事宛てに「政教分離を定める法令を遵守し、府知事をはじめとする府職員に、これら即位・大嘗祭にかかる諸儀式に関与させたり、公金を支出するなど違法行為をしないよう厳重に注意し、国（宮内庁）などから関与の要請があつても、憲法遵守の観点からきつぱりとこれを断る」よう要望書を提出しました。

しかし、京都府はその要望を無視し、昨年の九月から一月にかけて、「主基田抜穂の儀」他、「大嘗祭」関係の儀式に京都府知事他京都府職員が参列したのです。今年八月二一日、京都府監査委員会に対し京都府知事らの「主基田抜穂の儀」他大嘗祭関連の諸儀式への参列に要した公費の違法支出を問う監査請求をしましたが、一〇月五日付で京都府監査委員会はその監査請求を棄却しました。

ということで、「京都・主基田抜穂の儀違憲住民訴訟」の提訴の準備をすすめ、一月四日、京都地裁に提訴しました。

いつもの政教分離訴訟を担つてこられた加島弁護士からは、「最高裁が言つてつる」とは論理的に「ムチャクチャなのでいつかは覆すことができるはずだ。『社会的儀礼』で何でも通すな、そうはいかないぞ」ということを訴え続けなければならぬ。判決は一回ではひっくり返らないので、裁判を繰り返して、われわれはへこたれないことを

この訴訟の原告は監査請求人全員。弁護団は、三〇年前の原告約一七〇〇人を擁した即位礼・大嘗祭違憲訴訟の中心となつた加島弁護士他、安倍首相靖国参拝違憲訴訟の弁護士合わせて大阪弁護士会の六人と、諸富弁護士他オンブズマン関係等の京都弁護士会の弁護士の合わせて四人、計一〇人の弁護士です。

一月一四日には、支援集会を開催しました。

最初に原告兼事務局の代表として菱木政晴さんがこの訴訟の提訴に至るまでの経過を簡単に説明しました。原告兼事務局の代表として菱木政晴さんが

示さなければならぬ。最高裁をやつつけるつもりで京都と大阪で力を合わせて、法廷でおもしろい弁論を展開してゆきたい。と述べられました。

最後に菱木さんが「三〇年前に比べて、周りの状況は悪化しており、状況は厳しいけれど、われわれが支援者を増やしてがんばってゆきたい。いっしょにがんばってゆきましょう。」と締めくくりました。

この集会に、東京地裁で闘われている「即位・大嘗祭」違憲訴訟団から辻子実さんが駆けつけ、てくださり、激励の言葉をいただきました。東京での「即位・大嘗祭」違憲訴訟はいわば正面突破の国賠訴訟で、この京都での「主基田抜穂の儀違憲訴訟」は側面攻撃の住民訴訟です。「大分抜穂の儀違憲訴訟」の一〇〇二年最高裁判例は原告敗訴ですが、最高裁の政教分離訴訟の判例も変わってきており、「大分抜穂の儀違憲訴訟」の判決をひっくり返せる勝算も十分あると思います。

東京と京都から力を合わせて天皇制を挟み撃ちにしてゆきたいと思っています。みなさんの支援をよろしくお願いします。

太田田國の夢は夜ひらく 126

みたび

スト流行を「エーマ」としたアルベルト・カミエの「ペスト」が今回の「コロナ禍」の中で話題となり、読まれ、多くの人がびとが言及しているが、同じ時期の一九四〇～四二年に中国でペストが流行したのは、日本軍のせいであることに言及するものがほとんどないことは重大な欠陥であると話し始めた。この点については、私も思いを同じくする。私は、「三密を避ける」などの「コロナ対策」がすでに謳われていた一〇二〇年三月末、某所で「コロナの時代の愛と連帯をめぐって」と題する講演を行なった。そこで最後に触れたのは、今や世界中の国家が、国を擧げてコロナウイルス対策に力を尽くしているかに見えるが、国家というものは、戦時においては、占領した「敵地」において感染症を流行させるための実験を行なうような実態を持つ機構でもあることに触れた。もちろん、一九三六年から

居住地域で二〇一五年の安保関連法案反対運動を一緒に始めた仲間と、小さな反戦・平和の運動を続けていた。先日は松村高夫氏の講演会「ローナとペスト——七三一細菌戦部隊の今日的意味」を開いた。氏は、日本帝国主義下の植民地における労働史・社会史の研究者で、七三一部隊に関する研究発言も多い。松村氏は今回の講演の冒頭で、一九四〇年アルジェリアのオラン市で起つたペ

いるとは言えない。敗戦必至の段階で証拠隠滅が行なわれた。敗戦国・日本を占領した米国は部隊幹部や医師たちの戦争犯罪を免責したうえで、人体実験などの資料をすべて米国に引き渡させた。日本政府は資料の公開を阻み、事実に向き合おうとしてこなかつた。免責された専門家たちは戦後過程において、大学医学部再編、自衛隊病院、医薬品・医療器具メーカーなどで「重責」を担い続けた。「戦後平和主義」の「虚」は、ここでも顕わくなつてゐる。

この問題に鋭く触れた表現が、思いがけないとこから現われた。今年のヴェネチア国際映画祭

を「日本内地において考えるとき」、「日本軍が中国国民党の上にペスト菌を散布した八〇年前の史実を思い出さずにはいられなかつたのだ。

しかも、この史実は、この社会で広く知られて

の安易さ」を指摘する小野沢稔彦の批評（『映画芸術』四七三号）は挑発的に魅力的だが、ここでは深入りしない。軍国主義の風潮が広く社会に浸透する一九四〇年ころ、「洋風」の生活スタイルを貫いて神戸で優雅に暮らす主人公夫婦の人生が暗転し始めるのは、夫が日本帝国支配下の満洲へ出張し、そこで恐るべき「国家機密」を知るのだが、コスモポリタンとしての彼が、それを国際的に告発しようとして以降だ。その機密とは、細菌兵器の開発研究および人体実験のもようを記録した映

で銀獅子賞（監督賞）を受賞した黒沢清監督の『スパイの妻』である。これが優れた作品であること認めつつも、物語の構成における「横行する歴史修正主義を裏返した、良心的、願望的修正主義の安易さ」を指摘する小野沢稔彦の批評（『映画芸術』四七三号）は挑発的にして魅力的だが、ここでは深入りしない。軍国主義の風潮が広く社会に浸透する一九四〇年ころ、「洋風」の生活スタイルを貫いて神戸で優雅に暮らす主人公夫婦の人生が暗転し始めるのは、夫が日本帝国支配下の満洲へ出張し、そこで恐るべき「国家機密」を知るのだが、コスモポリタンとしての彼が、それを国際的に告発しようとして以降だ。その機密とは、細菌兵器の開発研究および人体実験のもようを記録した映像とノートに他ならないのだから、史実としての七三一部隊の所業が描かれていることがわかる。だが、この映画の劇場用冊子ではそこに何も触れていない。大方の映画評でも、これを名指して論じるものは少ない。この映画は、コロナワイルス流行以前に企画され、制作された。公開の時期が、偶然にも、この「コロナ期」にぶつかっただけだ。とはいえる。映画とは、観客が見てそれを「状況的に」評することではじめて完成するものだ。「敵地」でペスト菌や炭疽菌をつくり、人体実験まで行なっている帝国の現実を知ることで流転し始める富裕層の夫婦の物語を、その旧帝国の地にあって、しかも「コロナ禍のいま論じるときに、七三一部隊という具体的な名指しを欠いては、批評として成り立ちようもないと思つ。

## 象徴天皇の「代替わり」と「菊タブー」

——〈壊憲天皇制・象徴天皇教国家〉批判 その18

天野恵



——一月八日、「天皇も後継ぎもいらない!」11.8 「立皇嗣の礼」反対緊急行動を私たちは、原宿の神宮橋の上でデモ前アピール行動と、そしてデモというスタイルで実行した。病人など続出で、実行委スタッフが不足、やむなく人々にフラフラしている私の主催者としてのアピールでスタート。

デモ隊への右翼の暴力的な介入や脅迫は、いつもよりハデというわけではなかつたが、私の横について歩いていた女性が、突然殴りこんできた屈強な男(右翼)に突き飛ばされ、転倒するという事態が発生。あわてて助け起していいるど、私の後列にいた古い友人が「狙っていたのは、まちがいなくあんただ、気をつけるよ」と声をかけてくれた。

「アピール」などしてデモを歩いていたから、そういうことかと、かなり緊張を強いられて行進。機動隊員の目の前の公然たる暴行(彼女は軽い肉離れですんだが)それでも、その右翼は何事もなかつたようにその場を逃げだし、その後もデモ隊を脅迫し続けた。警察は、あいかわらずやらせ放題である(なんたるデキース)。

今回の「代替わり」のラストの抗議行動も、天皇主義右翼の暴力と市民警察の仮面をかなくなり捨てた。警察のハレンチさを強く印象づけられて終わつた。

翼のメチャクチャな暴力が突出した。その時の行動は、このニュースで報告していたはずだ。二〇一六年一二月号(No.6)〔平成代替わり〕状況に露出する(暴力とタブー)がそれである。その時は、私は宣伝カーに乗り込もうとしたら、車はすでにフロントガラスが破損しており、近づいて乗れるような状況ではなかつた。自分の文章を引く。

——「陛下を否定する非国民どもめ!」と叫びながら、眼前で殴りかかり蹴倒そうと暴行を繰り返す天皇主義右翼。機動隊員たちは、とりあえず暴行がいきすぎないように阻止はしてみせるが、押し戻せばそれだけ、右翼暴力団はゾロゾロと、機動隊のわきを歩き続け、暴力的介入をくりかえす。デモ隊の中にいた私は、「こんなシーンを目撃した。右翼のリーダーが「謝罪しろ!」と機動隊のリーダー風の男につめよっているのだ。もみ合いで機動隊員に殴られたというのだ。車のフロントガラスは破壊され、横断幕、マイク、プラカードなども破壊し奪う、暴力と盗みの現行犯に「謝罪」を要求され、警察の方がマズイナーという顔をしてオタオタしているの(とはいえないが、弱まつてじるといふ)とはいえないが、弱まつてじるといふ(傍線引用者・瀬戸源の文章)。

なんたるトンチンカン。学問の上の論議は「自由」になつても「平成天皇」時代、タブーは強まり続け、「反天皇制」のみならずいろいろな集会やデモへの右翼の脅迫は、日常化しており、警察の「不敬」取り締まりも、マスコミの天皇制批判言説の排除とひたすらなる皇室賛美も強化されてきた。こうしたトントンカン)があたりまえのように通つてしまつてゐるところ)〈象徴天皇制の菊タブー〉の政治的性格(タブーと感じさせない強力なタブー)がよく示されている。

けているという点を強調している。やはり戦後憲法の保障している「言論の自由」は、隠然たる「菊タブー」を前提にのみ成立しているものにすぎないのだ。

原武史・吉田裕編の「岩波 天皇・皇室辞典」

(二〇〇五年)の「菊タブー」の項目を読んでみた。

それは深沢七郎の「風流夢譚」に始まる。戦後の右翼による言論へのよく知られた「テロ事件」や政治家への右翼テロを具体的に示しつつ、以下の文章で結ばれている。

「88年に昭和天皇が病に倒れると、各地で華美な行動への自肅が行われ、タブーが社会に表面化した。その中で12月に本島等長崎市長が天皇に戦争責任があることを表明し、90年1月に右翼に銃撃され重傷を負うという事件も起きた。だが、昭和天皇の死と冷戦の終結は、確実にそのタブーに変化をもたらしている。特に昭和天皇側近の日記などの相次ぐ公表によって、天皇の戦争への関与が実証しベル

で冷静に論議されるようになった点は大きな変化で

ある。この点を取つてみても、タブーがなくなつた

とはいえないが、弱まつてじるといふ」とはいふよ

う(傍線引用者・瀬戸源の文章)。

野次風日誌

11月1日～11月27日

外交団長ら46人が参列。鳳凰の間で、秋篠宮が、皇太子の印として伝わる「壇切

受け取る。  
1月13日

1月1日

明治神宮 ◆明治神宮で「鎮座」「年祭」が行われ、徳仁からの供え物である「幣帛」がささげられる。

明治神宮（東京都渋谷区）を参拝。

「立皇嗣の礼」◆菅義偉首相が皇居で「立皇嗣の礼」の所作確認。

徳仁、雅子、秋篠宮、紀子◆徳仁、雅子が皇居を訪れ、8日に控えた「立皇嗣の礼」のリハーサルに臨む。車で皇居に入り、別の行事に臨んだ後、リハーサルで儀式の所作などを確認。秋篠宮、紀子が参加。

◆文化勲章の「新授式」が皇后・宮殿で開催され、徳仁が勲章を手渡す6人が選ばれ3人が欠席。例年実施していた天皇、皇后と文化勲章受章者らと

皇位継承策◆菅義偉首相が衆院予算委員会で、安定的な皇位継承策に向け、8日の「立皇嗣の礼」終了後、速やかに検討

十一月五日

徳仁◆皇后を訪れ、「立皇嗣の礼」が8日に行われることを報告するため、伊勢神宮などに使者の勅使を派遣する「勅使発遣の儀」に臨む。神宮のほか、神武天皇の陵と昭和天皇の陵にも勅使を派遣。それの勅使に「御祭文」を託す。

眞子、佳子◆創建から100年を迎えた

受け取る。

**〔1月13日〕** 徳仁・雅子◆赤坂御所で、政府の新型コロナウィルス感染症対策分科会の尾身茂会長から進講を受ける。

**眞子◆**宮内庁が、眞子と小室圭との結婚関連行事が延期になつてることについて、眞子の「お気持ち」文書を公表。宮内庁が、秋篠宮・紀子が、結婚を希望する2人の気持ちを尊重すると説明。眞子は文書の公表に当たり、徳仁・雅子や明仁・美智子にも報告したと報道。

**〔1月16日〕** 東京五輪◆菅義偉首相が、国際オリンピック委員会のバッハ会長と官邸で会談。

**〔1月18日〕** 徳仁・雅子◆赤坂御所で、新型コロナウイルスの医療機関での対応状況を聞き取るため、日赤医療センターと北海道・福島・沖縄の各赤十字病院をインターネットでつなぎ、視察や懇談をする。日赤医療センターの新型コロナ専用病棟などの説明をオンラインで受けた後、医療従事者と懇談。北見赤十字病院、福島赤十字病院、沖縄赤十字病院の関係者から、コロナ禍の状況や対応を聴取。

**〔1月23日〕** 疏黄島追悼式◆東京都が、太平洋戦争で激戦地となつた硫黄島の戦没者追悼式を都議会議事堂のホールで開く。

**〔1月24日〕** 徳仁・秋篠宮◆皇居・神嘉殿で執り行われた宮中祭祀「新嘗祭」に臨む。秋篠宮が皇嗣として殿上で拝礼。

皇統譜◆宮内庁が、天皇と皇族の戸籍に当たる「皇統譜」に、「立皇嗣の礼」の中

心儀式「立皇嗣宣明の儀」を1月8日に行つたと登録。皇族譜に記載される。

「皇女」◆政府が皇族数減少に伴う皇室活動の担い手確保策として、女性皇族が結婚した後に「皇女」の「尊称」を贈り、「公務」への協力を委嘱する新制度の創設を検討していることが分かる。結婚後も皇族の身分を保持する「女性宮家の創設は、女系天皇の容認につながる可能性があるとして見送る。

【1月25日】

徳仁・雅子◆赤坂御所で、大分県豊後大野市の高齢者団体と東京都渋谷区のシルバー人材センター関係者とオンラインで交流。

日中関係◆菅義偉首相が、中国の王毅・

国務委員兼外相と官邸で会談。

【1月26日】

「皇女」◆国民民主党の玉木雄一郎代表が記者会見で、「皇女」制度について「問題がある」と思っている。共産党の志位和夫・委員長が会見で「女性、女系天皇を認め

ていく方向での検討が必要だ。憲法に照らしても女性、女系を否定する根拠はない」。

新年一般参賀◆翌年の新年一般参賀について、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて実施しないことを決めた。

【1月27日】

政治資金◆総務省が公表した政治資金収支報告書で、武田良太総務相と堀内詔子環境副大臣の政治団体が靖国神社に、それぞれ1万2千円を支出していたと報道。武田総務相と堀内副大臣の事務所は取材

## 美女の「眞理子」

天皇制を考える w a m セミナー、スタート！

二〇二〇年一月三日、「w a m セミナー、天皇制を考える」の第一回目として、池田浩士さんを講師に「叙勲・お言葉・思いやり……天皇と「国民」を結ぶもの——『明治節』に考える」を開催した。

w a m では、昨年の代替わりにあたつて、「おわんねうと」に賛同し、四月三〇日には「天皇制に終止符を」と題するアピールを出した。今回の代替わりの過程では、天皇制を擁護する「良心的知識人」が増え、女性天皇を支持する「フェミニスト」も登場した。

## 崎原盛秀さんを悼む

私たちが大きな影響を受けた崎原盛秀さん

社会全体に広がるこの空気は、天皇制について議論することさえ難しくなるのではなく、危機感を感じるものだった。女性国際戦犯法廷から二〇年の節目にあたる今年、人道に対する罪としての日本軍性奴隸制の責任者として天皇裕仁に「有罪」を宣告した女性たちの闘い、その思想を引き継ぐ w a m にできることを話し合った。そして、

二〇二〇年九月一日以降、天皇が生まれた日と「紀元節」の四日間を「祝わない」ために開館し、天皇制を維持してきた責任を見つめなおす、議論する場を作つていくことにした。その第一回目に池田浩士さんを京都からお迎えし、時間と「場」を共にできたのは幸いだった。

私たちが崎原さんと知り合ったのは「金武湾を守る会」の反CTS鬭争でした（私は当時まだ活動に参加していないのですが）。崎原さんの「代表はないのですが」、崎原さんの「代表はない」、「一人ひとりが代表」。誰も他者の命を代表できないという思想があつた（沖縄タイムス／20.1.9）姿勢は会つた

神を收攬」されず、撃滅・帰順せらるゝ、稀有な一〇分の一として生き続ることである——。三時間に及ぶセミナーにはオンラインと会場で八八名が参加、質疑応答も活発で、「明治節」の出会いの場でもあった。

（渡辺美奈／w a m）

会場は駐車場に入る車が列をなし、会場の外まで参列者が溢れている状態でウチナンチューの優しさを改めて感じました。

電が読み上げられている中で最後のお別れをしました。出口には崎原さんの若い頃の写真や映像が流されています。私たちが崎原さんと知り合ったのは「金武湾を守る会」の反CTS鬭争でした（私は当時まだ活動に参加していないのですが）。崎原さんの「代表はない」、「一人ひとりが代表」。誰も他者の命を代表できないという思想があつた（沖縄タイムス／20.1.9）姿勢は会つた

トンチューとしてこの日本国家とどう戦い、連帯していくかを突き付けられています。また、崎原さんは、沖縄靖国合祀ガッティンナラン訴訟の原告の一人でもありました。

（野村／労活評）

## 天皇も跡継ぎもいらない！「立皇嗣の礼」反対緊急行動

「立皇嗣の礼」が強行された一月八日、「天皇も跡継ぎもいらない！」の「立皇嗣の礼」反対緊急行動」が原宿・神宮橋で取り組まれ、渋谷・宮下公園までのデモを行った。主催は、「国家による『慰靈追悼』を許すな！」8.15反靖国行動」。

閣議では、この日名府省で「日の丸」モに出発。「立皇嗣の礼に反対！」「天

### 【学習会報告】

#### 山田朗『日本の戦争Ⅲ 天皇と戦争責任』

（新日本出版社・二〇一九年）

本書は、天皇の戦争責任回避の根拠として定説となっていた、天皇「無答責」論と実態としての天皇の戦争不関与という間違いを正していくことを大きな目的に編集されている。一九九五年の「現代における〈戦争責任〉問題——天皇の〈戦争責任〉論を中心に」から、二〇一六年「昭和天皇実録」の軍事史的分析」と、およ

そ二〇年間に書き積み上げられてきた研究論文の集大成である。

著者は、様々な言論によって作り出された昭和天皇裕仁「無力で戦争に消極的立憲君主」といったイメージを覆すために、一次資料を丹念に読み、裕仁は書な君主では決してなかつたことを証明

するため、長期にわたる研究を続けてきた数少ない実証主義歴史研究者だ。一方で、裕仁の戦争関与に関する実態を暴露していくことで、これだけ作戦等への関与があつたのだから戦争責任なしとは言わせないといった主張の新しさと説得力の強さに私たちは気を取られすぎ、明治憲法下で大元帥・戦争の最高責任者という地位にあるというだけで逃れようもないはずの責任から、逃れきつたことの問題が、天皇の曖昧で漠然とした「下問」によって作戦が変更されたりするあたりの詳細な記述に、天皇制の「忖度政治」の「伝統」を読み、天皇のわがままぶりに呆れ、久しぶりに裕仁への悪口三昧で盛り上がった。

学習会では、天皇の曖昧で漠然とした「下問」によって作戦が変更されたりするあたりの詳細な記述に、天皇制の「忖度政治」の「伝統」を読み、天皇のわがままぶりに呆れ、久しぶりに裕仁への悪口三昧で盛り上がった。次回は、二月一五日（火）、坂野潤（大子）

を掲揚するほか、地方自治体や学校、会社などに掲揚への協力を求めることが決めた。衆参両院などは、「立皇嗣の礼」に祝賀の意を表す「賀詞」を決議していた。あらためて秋篠が「次の天皇であると宣言するこの儀式は、まさに一連の「天皇代替わり」儀式の最後に位置づけられるものである。

デモ出発前のアピールでは、主催者あいさつに続いて、「反戦・反天皇制労働者ネットワーク、アクティブ・ニュー・ジアム「女たちの戦争と平和資料館」（woman）、オリンピック災害おこことわり連絡会から連帯アピールを受け、最後に実行委メンバーが「緊急行動アピール」を読み上げた。

集会後、表参道から渋谷に向けたデモに出発。「立皇嗣の礼に反対！」「天

皇も皇嗣もいらない！」「皇位継承の儀式を認めないぞ！」「などのシユブレヒコールを響かせた。

このデモに対しては、随所で右翼の攻撃が目立つた。明治通りでは、デモ隊に突つ込んできた右翼によって転倒した参加者が負傷させられた。右翼の暴力を許さず、原則的に反天皇制運動を持続していく。参加者は九〇名。

（北野薫／実行委）

一二日夜には文京区民センターで集会。当会の鶴崎哲さんは「コロナウイルスに打ち勝つ人類とはなんなか」という問いに対して「ウイルスに打ち勝つ」と「ウイズコロナ」とが同義になつてきている構図が「なんでもありの強硬路線」を強要できる下地を作つていることを喝破した。ジャーナリストの藍原寛子さんは今年七月に撮影した福島県浜通りの聖火リレーコースの映像を紹介しながら、「復興五輪」と宿神宮橋で街宣行動。

一二〇日からは横浜スタジアムでの満席実験、そして一月八日には屋内実験として四か国による国際体操競技大会と「ロナ状況の拡大にもかかわらず、観客OKパフォーマンスが行われることに抗議して一月八日に原宿神宮橋で街宣行動。

福島の現状とせ、よい眠しや短らつかない。『復興五輪』の主体となる福島の人々は、疲弊しており復興がいつのまにかではない」と語った。

一五日の新宿アルタ前街宣では、才リンピック終息宣言展を来年一四月に行うアーティスト、入管収容中に暴力を受けたクルド人難民、「オリンピック追い出しをやめろ! 国賠」、リモートで釜ヶ崎、そして福島からは「避難民の生活は厳しくなり、子供たちの様子な病気も多発している。汚染土の再利用も実験段階に入り、汚染水放出の動きもめぐわやだ」と力強いアピールがあつた。

街宣後九〇人参加でデモに出発。都府県を通り新宿中央公園で解散。

バッハ来日のスケジュールをよつやくつかんだ反五輪の会のメンバーを中心としてバッハ来日初日一六日には都府県前で、一七日には新国立競技場前で抗議行動が急遽行われた。間近まで詰め寄られたバッハは会見で、対話の姿勢はなく叫び続けていただけだったと言ふをしたが、直接市民の声として中止一択を浴びせかけられたことは大きな収穫といえるだろ。日本の大マスコミは一切報じなかつたが、ネットではかなりその様子も共有化されていった。五輪中止に向けてわがなる声を!(宮崎俊郎／オリンピック災害おこしわら連絡会)



10月23日(金) ● オリンピックおことわリンクスタンドイレッガ

11月3日(火) ● wadセミナー 天皇制を考える「叙事・お言葉・思いやり…」

11月8日(火) ● 今こそ中止だ東京五輪国際体操大会への対抗アクション(集会報告参照)

11月11日(水) ● 即位大嘗祭違憲訴訟(差し止め差戻審) 第二回頭弁論

11月13日(金) ● 今こそ中止だ東京五輪! こり押し五輪だ! Go to Hell! 集会(集会報告参照)

11月15日(日) ● 今こそ中止だ東京五輪! こり押し五輪だ! Go to Hell! フト

11月18日(水) ● 湯浅欽史さんを偲ぶ会

11月23日(日) ● オリンピックおことわリンクスタンディング

11月27日(金) ● 東海第二原発を止めよう! 集会(集会報告参照)

12月1日(火) ● 即位大嘗祭違憲訴訟(差し止め差戻審) 第三回頭弁論

12月9日(水) ● 即位大嘗祭違憲訴訟(差し止め差戻審) 第三回頭弁論

12月10日(木) ● 10時15分開廷／東京地裁708号法廷

12月12日(土) ● 12月12日(土) ~ 2021年11月末予定

12月13日(日) ● 南京大虐殺から83年

12月14日(月) ● 2020年東京証言集会

12月15日(火) ● 14時30分~全水道会館大会議室(地下鉄霞ヶ関駅前)

12月16日(水) ● 14時30分~全水道会館大会議室(地下鉄霞ヶ関駅前)

12月17日(木) ● 14時30分~全水道会館大会議室(地下鉄霞ヶ関駅前)

12月18日(金) ● 14時30分~全水道会館大会議室(地下鉄霞ヶ関駅前)

12月19日(土) ● 14時30分~全水道会館大会議室(地下鉄霞ヶ関駅前)

12月20日(日) ● 14時30分~全水道会館大会議室(地下鉄霞ヶ関駅前)

● 天皇の戦争責任・忘却する「国民」  
○ 女性国際戦犯法廷から20年(仮)

13時~18時(月・火・休日休館) / w  
a m 女たちの戦争と平和資料館(地下鉄早稲田駅) / 主催: 同館

13時30分~ / 柴中会公会堂(地下鉄立川駅南口ほか) / 米沢薰 / 主催: シビル

13時~ / オンラインのみ・要事前申込み / ウスティニア・ドル・ボル、阿部浩司・李娜榮ほか / 主催: 女性国際戦犯法廷20周年実行委員会(問い合わせ houtei20@gmail.com)

13時~ / 文京区民センター2A(地下鉄春日駅前) / 前田哲男、繩繩厚ほか

○ 主催: 重慶大爆撃の被害者と連帯する会・東京(03-3501-5558/元永)

14時30分~ / 柴中会公会堂(地下鉄霞ヶ関駅ほか)

14時集合・18時30分デモ出発 / 外濠公園(地下鉄ほか市ヶ谷駅) / 主催: 大軍拡と基地強化にNO! アクション

2020、戦争・治安・改憲NO! 総行動実行委員会(03-3961-0212ほか)

18時~ / 防衛省デモ

18時30分~ / 全水道会館大会議室(地下鉄霞ヶ関駅) / 細工藤龍司 / 主催: ノーモア南京の会(03-3889-9499)

19時30分~ / 全水道会館大会議室(地下鉄霞ヶ関駅) / 細工藤龍司 / 主催: ノーモア南京の会(03-3889-9499)

か) / 西川純子 / 主催: 大軍拡と基地強化にNO! アクション(03-3961-0212ほか)

13時30分~ / 柴中会公会堂(地下鉄立川駅南口ほか)

か) / 西川純子 / 主催: 大軍拡と基地強化にNO! アクション(03-3961-0212ほか)

13時30分~ / 柴中会公会堂(地下鉄立川駅南口ほか)

か) / 西川純子 / 主催: 大軍拡と基地強化にNO! アクション(03-3961-0212ほか)

13時30分~ / 柴中会公会堂(地下鉄立川駅南口ほか)

か) / 西川純子 / 主催: 大軍拡と基地強化にNO! アクション(03-3961-0212ほか)

13時30分~ / 柴中会公会堂(地下鉄立川駅南口ほか)

か) / 西川純子 / 主催: 大軍拡と基地強化にNO! アクション(03-3961-0212ほか)

13時30分~ / 柴中会公会堂(地下鉄立川駅南口ほか)

13時30分~ / 柴中会公会堂(地下鉄立川駅南口ほか)